

秋田県だより

能登宏光

1 はじめに

日本透析医学会の2014年末の統計調査報告によると、秋田県の透析患者数は2,050名（血液透析患者1,991名、腹膜透析患者59名）と全国で4番目に少なく、基幹総合病院10施設を含む42施設で患者の治療に当たっています。また、県内の透析医会会員は10名しかおらず、「日本透析医会秋田県支部」という組織は存在しません。

秋田県内の透析医療は、当初、秋田大学、東北大学、新潟大学、弘前大学および岩手医科大学附属病院から派遣された、泌尿器科医や腎臓内科医により個々に行われておりました。現在は、県内の全透析施設が所属する「秋田腎不全研究会」（事務局：秋田大学医学部附属病院泌尿器科）を中心として、腎不全およびそれに関連する疾患の知識と技術を高揚し、地域医療に貢献するべく活動しております。

2 秋田腎不全研究会

秋田腎不全研究会^{※1)}は、1997年、秋田県の腎不全診療、血液浄化療法、腎代替療法等の、疫学・病態・診断・治療・看護に関する幅広い研究を通し、この分野の発展に寄与することを目的に、加藤哲郎前泌尿器科教授（現：秋田大学名誉教授）を中心に設立されました。現在は、羽瀧友則（秋田大学附属病院長、腎泌尿器科教授）会長を中心に、副会長1名、常任幹事9名、幹事（透析施設から1名、秋田県臨床工学技士会2名、秋田県透析従事者交流会1名）が役員となって

運営しております。

事業内容としては、①年1回の学術集会の開催、②年1回の研究会誌『秋田腎不全研究会誌』発刊（1998年12月Vol.1創刊、2012年の発刊誌から医学中央雑誌収載）、③年1回の、腎不全医療に関する市民公開講座の開催、④その他、本会の目的を遂行するために必要な事業等を行っております。本年の学術集会としては、佐藤滋先生（秋田大学医学部附属病院腎疾患先端医療センター教授）を当番幹事として、第20回秋田腎不全研究会を、平成28年11月26～27日に秋田市で開催する予定です。

3 秋田県透析施設災害ネットワーク

秋田県透析施設災害ネットワークは、2009年、秋田腎不全研究会が「災害発生時の透析医療を円滑に行う、県内透析施設の支援機関」として立ち上げ、秋田県臨床工学技士会と連携して活動しております。

3-1 災害ネットワークシステム（図1）

秋田県を9ブロック（各ブロックは3～6施設からなる）に分け、各ブロックの基幹病院を地域本部とし、事務局を秋田大学医学部附属病院に置いております。各施設の代表者（医師）と副代表者（臨床工学技士、看護師長、他）はメーリングリスト（ML）に登録し、災害発生時にはMLで情報交換を行うことにしております。

災害発生時、透析医療に関する問題は基本的にはブロック内で対処し、状況によっては他のブロックも協

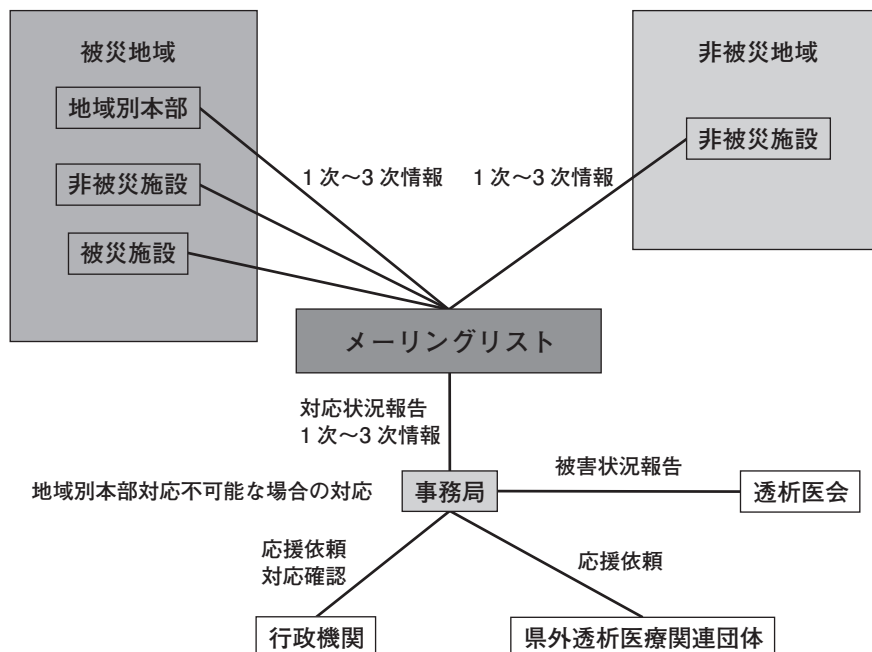


図1 秋田県透析施設災害ネットワークのシステム
(秋田県透析施設災害ネットワーク事務局提供)

力体制をとることになっております。透析施設は随時情報をMLにUPし、ML登録者は随時MLを開き、その時点の県内各施設の動向を共有することにしております。

3-2 災害ネットワークのこれまでの活動

2009年、秋田県臨床工学技士会が秋田県内13市に対して、災害時の給水についてアンケート調査を試行しました。市の多くは、透析施設の把握はしていましたが、透析治療に大量の水が必要であるという認識がなく、災害時に十分な対応が得られる状況にはありませんでした。災害ネットワークと各自治体との間の連携を強化する必要性が、改めて感じられました。

2011年3月11日の東日本大震災発生時は、停電とサーバーダウンのためMLが使えず、MLによる情報共有が行えるようになったのは13日からでした。

MLが機能しない場合の代替連絡手段として衛星電話の使用が考えられますが、県内施設に問い合わせたところ、42施設中14施設(33%)がすでに衛星電話を設置しており、14施設が今後の設置を検討しているという結果でした。災害ネットワーク本部と衛星電話設置施設との間で通信テストを行ったところ、スムーズな情報伝達が可能でした。

2012年からは、年1回、患者(秋田県腎臓病患者連絡協議会)・行政(秋田県健康福祉部健康推進課、

総務部総合防災課)・災害ネットワーク(秋田腎不全研究会、秋田県臨床工学技士会)の三者懇談会を行っております。また、2014年から、各ブロック内での連絡強化を目的として、ブロックごとに基幹病院に集まり、協議会を開催しております。

4 おわりに

「日本透析医会秋田県支部」が組織化されていないこともあり、これまで、日本透析医会災害情報ネットワークの災害時情報伝達訓練に、秋田県からの参加はありませんでした。しかし、2016年9月1日の第17回災害時情報伝達訓練には、秋田県災害ネットワーク本部(秋田大学医学部附属病院)と秋田県内の透析医会会員の全施設が参加しました。

震災時施設情報の送信(訓練)のシナリオは、秋田県透析施設災害ネットワーク事務局の齋藤満先生(秋田大学医学部附属病院血液浄化療法部講師、秋田腎不全研究会事務局長)に依頼し、「秋田県地震被害想定調査報告書(概要版)」(平成25年8月)から、想定地震No.7秋田仙北地震【M=7.3, 最大震度7】を引用して作製して頂きました。今回の訓練では、各施設から地域の想定震度から考えられる情報が正確に送られており、これからの、秋田県透析施設災害ネットワークの災害時訓練にも、今回の訓練参加が役立つものと考えられました。

参考 URL

※ 1) <http://www.akitajinfuzen.jp/>